

2008年(平成20年)10月15日(水曜日) 日刊

詳報 第3回建設

ランナーフォーラム

10

環境ビジネスへの参入

では、新技術の開発だけでなく、事業そのものをつくり上げていくという視点が重要だ。発想の転換が新たなビジネスを生み出す原動力にもなる。

■溶融スラグを有効活用

長崎県リサイクル透水性カラーコンクリート舗装協同組合は、県内の舗装工事会社6社で運営する。長崎県が2003年に溶融スラグ有効利用に関する指針を策定したことから、一般廃棄物処理場から出る溶融スラグの活用を模索。特殊結合剤(特許承認)の開発により、スラグを40〜50%再

●環境ビジネス分科会II

利用したりサイクル透水性コンクリートを開発した。同組合の谷村隆三理事長は「施工に関しては、より安価で迅速な施工が提供できるよう、アスファルトフイニッシャーによる機械施工を実現した。また油などを一切使用しないことや、最近の原油高にも対応できる」と利点を強調した。

経年経過のデータが少ないうえに、将来的に補修が必要となった時に「再度、同様の利用ができることも利点」(谷村理事

長)と再利用ができるメリットを説明。他県でも長崎県のように協同組合組織をつくり、一般廃棄物処理場から出る溶融スラグを有効活用すべきだと呼び掛けた。

■中古太陽光発電に着目

田組の関連会社として設立。翌年、太陽光発電事業をスタートさせた。

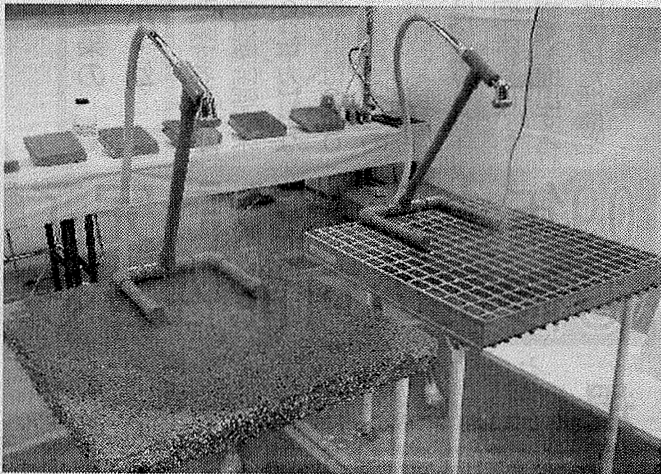
伊藤敦社長は「太陽光発電で成果を上げているのはターゲット。現在の取扱量は

訪問販売の会社がほとんど。思うように業績を上げることができなかった」と当時を振り返った。

その後、自社でできることを模索。「太陽光発電の主要部材であるモジュールは、寿命が長いことに着目した。将来は中古市場の需要が出てくると考えた」と欲をみせた。

05年12月に富山県の地場大手建設会社13社(コンサル2社含む)が立ち上げた富山環境技術事業協同組合。取り組みの柱となるのは

発想の転換で新事業



舗装材の透水性の実演(長崎県リサイクル透水性カラーコンクリート舗装協同組合)

調した。

同組合は、土木研究センターなどから講師を招き、定期的に勉強会を開催している。さらに、県や市町村、各種団体への技術紹介も実施。森氏は「われわれは地球温暖化対策への取り組みも行っている。地方の建設企業が生き残らなければ、その取り組みもできなくなる。国の支援が必要だ」と訴えた。さらに「新しいビジネスを生み出す必要がある。各地域の皆さまと一緒に事業展開していきたい」と考えを示した。

は財団法人土木研究センターと提携し、組合の中に設けた富山地域環境コンソーシアム(TREC)だ。い」と話す。そして「豊かな環境資源を大事に使う仕組みづくりが必要」だと強調します

日本には建設業が必要です